



地域医療連携室だより

<http://www.misugikai.jp>

社会医療法人 美杉会
男山病院

2021年度 第4号
2022年1月発行

男山病院 院長よりご挨拶



明けましておめでとうございます。新型コロナは人類が右往左往するのを嘲笑うかの如く、次々とその姿を変異させています。アフターコロナという言葉も近頃は誰も使わなくなったように思います。世界の叡智を結集しても一つのウイルスを制圧することがこれほど困難であると私たちは思い知らされました。男山病院では昨年9月27日からコロナ対応病床を新たに設け、中等症までの感染者の治療も開始しました。今後、新たな感染の波が来た場合、自宅から近い施設での治療が可能となります。年末には日本でも初のコロナ内服治療薬（モラスピラビル）が緊急承認され処方可能となりました。これまでにないスピード感をもって新薬が承認されることはコロナ以前では前例が無く、画期的な出来事です。一般診療では、乳腺外科において松方部長の的確な診断と新たに導入された検査機器、そして形成外科江野尻副部長と共に整容性の高い乳房再建術を行いたいへん喜ばれています。



男山病院 院長
あらかき まさと
荒木 雅人

整形外科では、我が国でも年々その手術件数が右肩上がりの人工関節置換術において、正確で確実に手術を行うためのナビゲーションシステム（ストライカー社）を導入しました。患者さんの入院期間も徐々に短くなり早期の社会復帰が可能となりました。術後満足度も改善しています。また、近年急増している骨粗鬆症患者さんに対して、確実に切れ目のない治療が入院中から退院後も行えるよう骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）を開始し、その成果が見えるようになりました。有効な治療法が次々と開発されても臨床の現場で行えなければ意味がありません。また整形外科医師をはじめとする看護師、薬剤師、放射線技師、リハビリ、MSW、クラークなど多職種に及ぶ連携チームは結束も固く、定期的なミーティングにおいても毎回活発な討議が行われています。今年も様々な分野において地域の先生方や近隣住民の皆様により良い医療、サービスが提供できますよう進めて参ります。

回復期リハビリテーション病棟師長より

コロナ禍で、色々な制約が続いております。当院でも、面会禁止が継続されております。退院前訪問や外出・外泊もできない現状です。このような状況下で自宅退院に向け、タブレットなど使用しリハビリの状況を動画で撮影しご家族へ動作確認をして頂き、自宅の状況を写真撮影などして頂きリハビリ強化・福祉用具の検討など退院支援に役立てております。ご家族の協力のもと、担当スタッフも協力し退院に向け頑張っております。回復期リハビリテーション病棟でのリハビリが必要な方がおられましたら、地域医療連携室へご相談ください。

回復期リハビリテーション病棟師長
とくほ ひろみ
徳保 広美

常勤医師退職のお知らせ

泉谷環（腎臓内科医長）
（2021/12/3まで）

藤島由佳（消化器内科医長）
（2022/2/4まで）



社会医療法人美杉会 男山病院 地域医療連携室

日本医療機能評価機構 認定病院

〒614-8366 京都府八幡市男山泉19番地

直通電話

075-983-0076

専用FAX

075-983-0091

■ 受付時間

月・火・金	9時～19時
水・木	9時～17時
土	9時～12時

回復期リハビリテーション病棟

リハビリテーション科より

みなさん始めまして、昨年10月より男山病院に配属になり、今年10月から回復期リハビリテーション病棟のチームの一員に加わりまたリハビリテーション部科長の藤井です。回復期リハビリテーション病棟の全スタッフと協力して、入院される患者さん1人1人が元の地域社会で充実した生活を取り戻せるように『みんなで楽しく元気になる』を目標に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

男山病院回復期リハビリテーション病棟では理学療法士・作業療法士・言語聴覚士合わせて21名のリハビリスタッフが配置されています。医師・看護師・介護士・栄養士・相談員とリハビリスタッフ

がチームとなって情報や目標の共有を行い、協力しながら患者さん、ご家族さんと常に向き合う事で、「どのようにしたら患者さんが元の地域社会で充実した生活を取り戻せるのか」をみんなで考えながら、病棟での生活やリハビリを実施しています。

また1人1人の患者さんに対して、元の生活の環境に合わせながらリハビリスタッフが患者さんそれぞれに合わせたプログラムを立て、365日毎日（1日最大3時間）個別の訓練を実施しています。

リハビリの種類として、起きる・座る・立つ・歩く等の基本的な動作の獲得を目指す理学療法士、

着替える・顔を洗う・調理をする・洗濯をする等の応用的な動作の獲得を目指す作業療法士、飲み込み・発声・会話等の能力の獲得・向上を目指す言語聴覚士の3種類があります。それぞれが専門性を活かしながら患者さんの必要性に応じて訓練を実施しています。

これからもリハビリテーション病棟チームが一丸となり患者さんが元の生活に戻り、充実した生活が送れるよう全員で協力していきたいと思います。



回復期リハビリテーション病棟担当スタッフ ※()は病棟専属スタッフ人数		
理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
12名 (4名)	6名 (2名)	3名 (1名)

ソーシャルワーカーより

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、回復期リハビリテーション病棟が開設されて10年という節目の年でした。11年目となる今年も患者・家族さんが安心して、慣れ親しんだ地域での生活を続けることができるように専門職種が一丸となってリハビリに取り組んでいきます。ソーシャルワーカーとしても、地域の社会資源をフル活用し、笑顔で元気に自宅へ退院していただくことができるようにサポートさせていただきます。本年も男山病院回復期リハビリテーション病棟をよろしくお願いします。

